

2020年12月期第2四半期 決算説明資料

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証第1部)

2020年8月28日

1. トピックス

2. 2020年12月期第2四半期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別業績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

3. 2020年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

4. 当社の現状と今後の方向性

5. 株主還元について

1. トピックス

➤ 第2四半期決算は予想比で上振れ（8/13リリース）

- 売上高は、不動産事業でのコロナ禍のためテナント賃料が減収、機械関連事業での消防自動車出荷の下期へのずれ込みにより、予想を下回る。
- 各段階利益は、商業施設の減収があったものの、各事業において営業関係費用の圧縮の結果、予想を上回る。

➤ 通期業績予想を若干下方修正（8/13リリース）

- 売上高及び各段階利益は、主として不動産・機械関連・繊維の各事業におけるコロナ禍の影響により、当初予想を下回る見込み。

➤ トピックス

以下の施策の完了により構造改革については一定の目途。

- 希望退職の実施（2020/4）
- 当社衣料品事業部門の大幅縮小と連結子会社への一部事業譲渡（2020/5）

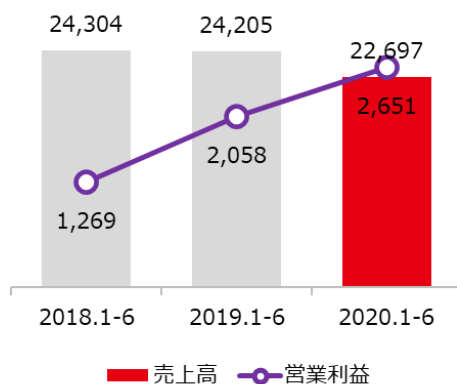
また、構造改革に一定の目途がついた機械関連事業の連結子会社（日本機械工業株式会社）を完全子会社化（2020/7）

2. 2020年12月期第2四半期 決算概要

(金額単位：百万円)

	2020.1-6実績	2019.1-6実績	前期増減	2020.1-6予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	22,697	24,205	▲ 1,508	24,100	▲ 1,403
営業利益	2,651	2,058	593	1,800	851
営業利益率	11.7%	8.5%	3.2pt	7.5%	4.2pt
経常利益	3,068	2,548	520	2,100	968
特別利益	0	255	▲ 255	—	—
特別損失	▲ 1,273	▲ 599	▲ 674	—	—
税引前利益	1,794	2,204	▲ 410	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,008	1,392	▲ 384	400	608

【過去3年間の業績推移】



【売上高・営業利益】

- 減収も増益 (詳細は次ページ)

【特別損失】

- 2020年
割増退職金 ▲993M
新型コロナウイルス感染症による損失 ▲280
- 2019年
割増退職金 ▲519M

【売上高・営業利益】

- 主として不動産・機械関連事業の減収
- 各事業における営業費用の圧縮により増益

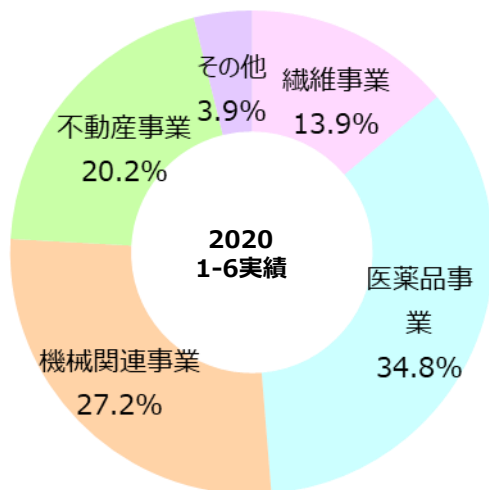
【親会社株主に帰属する四半期純利益】

- 特別損益の悪化により、減益

(金額単位：百万円)

	2020.1-6実績		2019.1-6実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維事業	3,155	173	3,740	78	▲ 585	95
医薬品事業	7,899	953	7,146	468	753	485
機械関連事業	6,168	280	7,007	224	▲ 839	56
不動産事業	4,596	1,794	5,353	2,119	▲ 757	▲ 325
その他	877	68	957	▲ 10	▲ 80	78
調整額	-	▲ 619	-	▲ 821	-	202
合計	22,697	2,651	24,205	2,058	▲ 1,508	593

セグメント別売上高構成比


①：繊維で減収ながら増益

- 実用衣料で事業縮小、コロナ禍の影響により減収、労務費等の削減により増益
- 機能性繊維は前期並み

②：医薬品で増収・増益

- パンデミックに備えた販社への納入により増収・増益

③：機械関連で減収ながら増益

- 消防自動車で前期にODA海外向けのスポット受注、高粗利の電力会社向け受注があったため減収。
- 原価低減の取り組みによる採算性向上により増益

④：不動産で減収・減益

- コロナ禍の影響による賃料収入の減により減収減益

⑤：調整額の減

- 希望退職実施による間接部門労務費の減

連結貸借対照表

(金額単位：百万円)

	2020.6	2019.12	前期増減
	A	B	A-B
流動資産	49,470	52,549	▲ 3,079
固定資産	84,591	88,444	▲ 3,853
有形固定資産	47,219	47,979	▲ 760
無形固定資産	533	512	21
投資その他の資産	36,838	39,952	▲ 3,114
投資有価証券	33,164	37,017	▲ 3,853
資産合計	134,061	140,993	▲ 6,932
負債合計	51,631	56,392	▲ 4,761
借入金	13,853	14,769	▲ 916
預り敷金保証金	9,106	9,101	5
繰延税金負債	9,114	10,591	▲ 1,477
純資産合計	82,430	84,601	▲ 2,171
其他有価証券評価差額金	14,852	17,289	▲ 2,437
負債・純資産合計	134,061	140,993	▲ 6,932

- 期末在庫（消防自動車）の出荷による棚卸資産と仕入債務の減

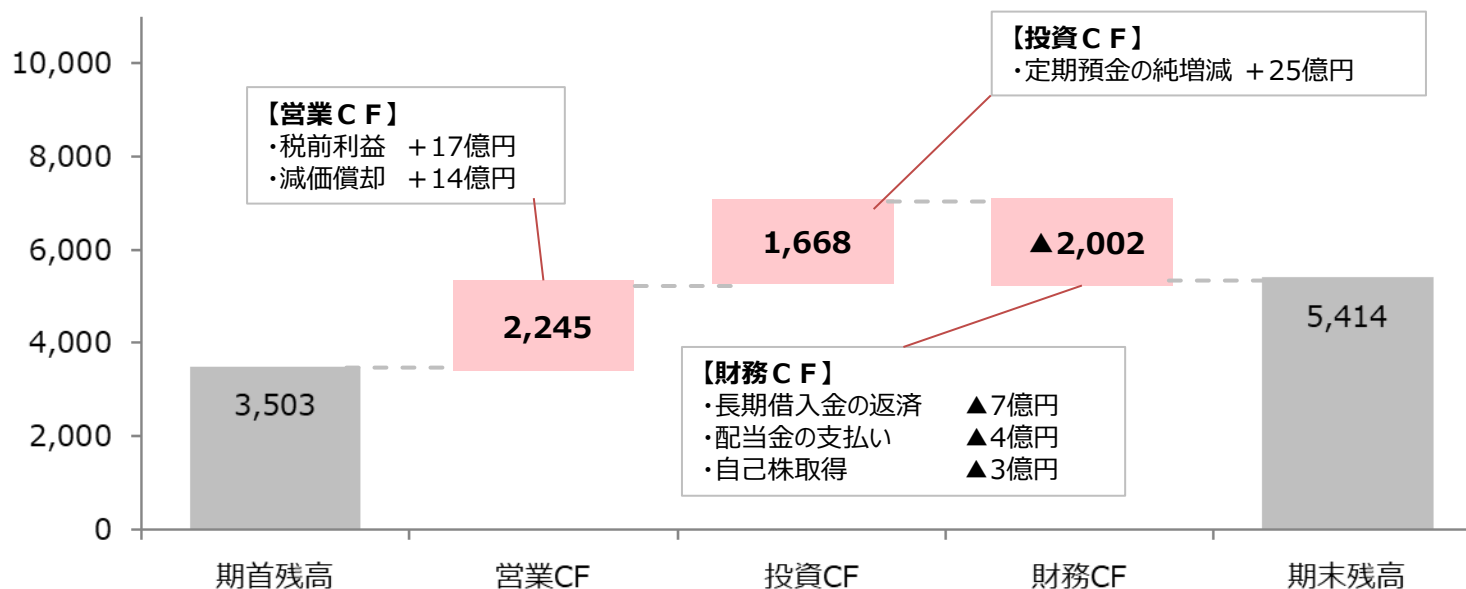
- 投資有価証券の時価下落

- 返済による減

(金額単位：百万円)

	2020.1-6実績	2019.1-6実績
現金及び現金同等物の期首残高	3,503	7,091
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,245	3,104
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,668	▲ 1,652
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2,002	▲ 4,089
現金及び現金同等物の増減額	1,911	▲ 2,637
現金及び現金同等物の期末残高	5,414	4,454

キャッシュ・フローの状況

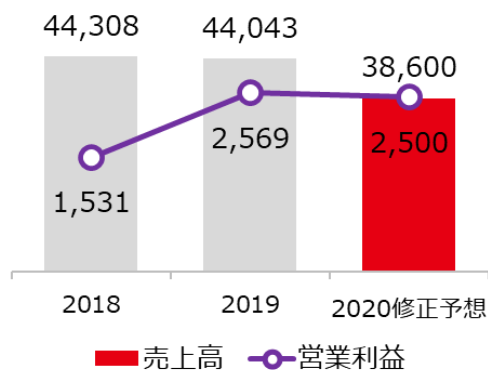


3. 2020年12月期 通期業績予想

(金額単位：百万円)

	2020修正予想	2019実績	前期増減
	A	B	A-B
売上高	38,600	44,043	▲ 5,443
営業利益	2,500	2,569	▲ 69
営業利益率	6.5%	5.8%	0.7pt
経常利益	3,250	3,430	▲ 180
特別利益	1,000	853	147
特別損失	▲ 1,400	▲ 1,216	▲ 184
親会社株主に帰属する当期純利益	1,600	1,732	▲ 132

【過去3年間の業績推移】



【売上高・営業利益】

- 売上高は減収、営業利益は前期並み（詳細は次ページ）

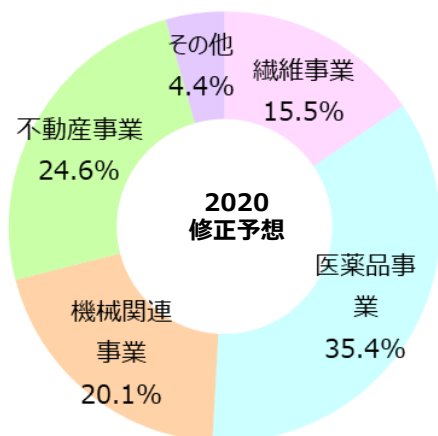
【主な特別損益】

- 前期：投資有価証券売却益 727
 - 割増退職金 ▲519
 - 減損損失 ▲272
 - 事業撤退損失 ▲257
- 当期：政策保有株式、社有地等の売却を予定
 - 割増退職金 ▲993
 - 新型コロナウイルス感染拡大による損失 ▲280

売上高は不採算事業の縮小・撤退、及びコロナ禍の影響により減収となりますが、営業利益は、希望退職と経費の見直し等の大幅な固定費削減により、各事業の収益性が改善したため、概ね前期並みを確保できる見通しです。

	2020修正予想		2019実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維事業	6,000	50	7,839	▲ 123	①▲ 1,839	173
医薬品事業	13,650	300	14,191	552	▲ 541	▲ 252
機械関連事業	7,750	▲ 100	9,481	▲ 234	②▲ 1,731	134
不動産事業	9,500	3,250	10,731	4,101	③▲ 1,231	▲ 851
その他	1,700	100	1,799	▲ 58	▲ 99	158
調整額	-	▲ 1,100	-	▲ 1,666	-	④ 566
合計	38,600	2,500	44,043	2,569	▲ 5,443	▲ 69

セグメント別売上高構成比



①：繊維で減収も増益

- ・ 実用衣料で事業縮小及びコロナ禍の影響により減収ながら、労務費等のコスト削減により増益。

②：機械関連で減収・好転ながら、通期営業赤字計上

- ・ 前期に消防自動車でODA海外向けや電力会社向け受注があったため減収。
- ・ 機械加工部門において、コロナ禍の影響大きく、主要取引先の減産等により、減収。
- ・ 原価低減の取り組み、労務費削減により好転したが、機械加工部門の減収により営業赤字。

③：不動産で減収減益

- ・ コロナ禍の影響による賃料収入の減により減収減益。

④：調整額の減

- ・ 希望退職実施による間接部門部門労務費等の減少。

(参考) セグメント別 上期・下期比較

- 繊維は、下期はコロナ禍の影響が当面継続するため、上期に比べ減収を見込んでおり、特に、利益率の高い機能性繊維における自動車関連業界の不振の影響を保守的に織り込んで営業利益は減益の見通しとしました。
- 医薬品は、上期に取引先からのパンデミックに備えた在庫確保の要請に対応した反動と4月以降の薬価改定の影響により、下期は大幅な落ち込みを見込んでいます。
- 機械関連は、消防自動車の出荷が1～3月に集中するため、下期は例年ダウントレンドとなります。
- 不動産は、下期以降、売上高はコロナ禍の影響から緩やかに回復することを見込む一方、販促・修繕などの実施により費用が高むため、上期に比べ、営業利益は減少する見通しです。

(金額単位：百万円)

	2020上期		2020下期予想		増減	
	A		B		B-A	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維事業	3,155	173	2,845	▲ 123	▲ 310	▲ 296
医薬品事業	7,899	953	5,751	▲ 653	▲ 2,148	▲ 1,606
機械関連事業	6,168	280	1,582	▲ 380	▲ 4,586	▲ 660
不動産事業	4,596	1,794	4,904	1,456	308	▲ 338
その他	877	68	823	32	▲ 54	▲ 36
調整額	-	▲ 619	-	▲ 481	-	138
合計	22,697	2,651	15,903	▲ 151	▲ 6,794	▲ 2,802

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

(金額単位：百万円)

	2020修正予想	2019実績	前期増減	2020期初予想	差異
	A	B	A-B	C	A-C
不動産事業	273	588	▲ 315	420	▲ 147
その他のセグメント	1,467	2,107	▲ 640	1,700	▲ 233
設備投資額	1,740	2,695	▲ 955	2,120	▲ 380

前期に繊維事業（機能性繊維）で製造工場の耐震補強工事を実施

不動産事業	1,569	1,676	▲ 107	1,580	▲ 11
医薬品事業	946	965	▲ 19	980	▲ 34
その他のセグメント	435	457	▲ 22	430	5
減価償却費	2,950	3,098	▲ 148	2,990	▲ 40

医薬品事業	2,068	2,015	53	2,070	▲ 2
その他のセグメント	102	129	▲ 27	160	▲ 58
研究開発費	2,170	2,144	26	2,230	▲ 60

4. 当社の現状と今後の方向性

(1) 現状

- 当社は、2017年2月14日に、2021年度を最終年度とする中期経営計画「カタクラ2021」を発表し、基本戦略である「成長事業への転換」に基づき、構造改革に取り組んでまいりました。
- 特に不採算事業については、計画策定時からの更なる事業環境の悪化により構造改革を1年延長し、2020年度での黒字化が見込めない事業の大幅な縮小または撤退を行いました。
- この結果、当社グループは、計画策定時に想定していた事業ポートフォリオから大きく異なる状況となったため、本年6月25日に中期経営計画「カタクラ2021」は取り下げをいたしました。選択定年優遇制度の拡充や希望退職と経費の見直し等の改革施策を推し進めた結果、大幅な固定費削減を実現させ、収益構造を改善することができました（16ページで説明）。
- 構造改革により収益性を改善することができた一方、2020年初から発生したコロナ禍は、当社を取り巻く経営環境を大きく変化させ、当社グループ業績全般にわたり影響を与えております（17ページで説明）。

(2) 現状（構造改革による収益性の改善）

(単位：百万円)		2016	2017	2018	2019	2020	説明
		実績	実績	実績	実績	予想	
繊維事業	売上高	9,635	9,132	8,259	7,839	6,000	不採算事業からの撤退・縮小により 減収ながら収益性改善
	営業利益	▲ 250	▲ 135	▲ 114	▲ 123	50	
医薬品事業	売上高	15,065	14,271	13,975	14,191	13,650	コスト削減の取り組みにより、 薬価改定の影響等で減収ながら収益性改善
	営業利益	199	581	164	552	300	
機械関連事業	売上高	9,412	9,689	9,052	9,481	7,750	不採算事業からの撤退・生産性向上により、収益力向上 の一方、受託加工部門のコロナ禍の影響大
	営業利益	88	▲ 168	▲ 456	▲ 234	▲ 100	
不動産事業	売上高	10,188	10,380	10,465	10,731	9,500	2020年コロナ禍によるテナント賃料減の影響あるが、 収益性改善
	営業利益	3,176	3,575	3,774	4,101	3,250	
その他	売上高	2,626	2,712	2,555	1,799	1,700	新規事業5事業すべてから撤退により 減収ながら収益性改善
	営業利益	▲ 511	▲ 384	▲ 288	▲ 58	100	
調整額	営業利益	▲ 1,216	▲ 1,566	▲ 1,548	▲ 1,666	▲ 1,100	管理部門コストを削減
合計	売上高	46,927	46,185	44,308	44,043	38,600	事業縮小・撤退・コロナ禍の影響により減収ながら、 各事業の収益性改善により、増益・利益率好転
	営業利益	1,486	1,901	1,531	2,569	2,500	
	営業利益率	3.2%	4.1%	3.5%	5.8%	6.5%	

		2016年末	2017年末	2018年末	2019年末	2020年 6月末	説明
人員数（人）	連結	1,381	1,350	1,292	1,169	1,083	選択定年優遇制度の拡充や希望退職等による人員削減等により、大幅に固定費を圧縮
	個別（当社）	349	338	319	233	133	

(3) 現状（コロナ禍の影響と今後の課題）

事業セグメント (コロナ禍影響度順)		コロナ禍の影響	今後の課題
医薬品事業		影響軽微	引き続き、販売・生産・研究にかかるコスト構造の更なる見直しにより、安定した収益基盤の確立に努める
機械関連事業	消防自動車	影響軽微	閑散期対策等、生産効率のさらなる改善を行い、収益率を向上させる
繊維事業	実用衣料	影響は中程度 得意先の仕入抑制による売上減少	統合シナジーを活かし、付加価値の高い介護商品拡充による収益力強化と、物流機能の統合等を通じたコスト削減を推進する
	機能性繊維	影響は中程度 自動車関連用途の受注減により売上減少	新たな高機能素材の開発と耐熱性繊維の用途開発を進める
不動産事業		影響大 テナント賃料減収	「withコロナ」時代の不動産市況を踏まえた将来開発方針の策定
機械関連事業	受託加工等	影響大 主要得意先（自動車業界）の減産影響	新規受注獲得、及び事業の見直しを図る

(4) 今後の方向性

- 構造改革の実行により、収益性の改善を果たすことができましたが、コロナ禍は、当社グループの各事業に大きな影響を与えており、事業によっては、さらなる事業の見直しの必要が生じている状況であります。
- 今後については、コロナ禍による経営環境の変化を踏まえ、もう一段の事業の見直しを図るとともに、不動産事業等の成長事業への経営資源の配分、および他社との事業提携やM&A投資等による新たな事業の柱の創出について、慎重に検討してまいります。加えて、更なる資本効率の改善や、株主還元の適切な水準への引き上げを図ることで、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。
- 2021年度以降の計画につきましては、再度設定が可能となった時点で公表させていただきます。

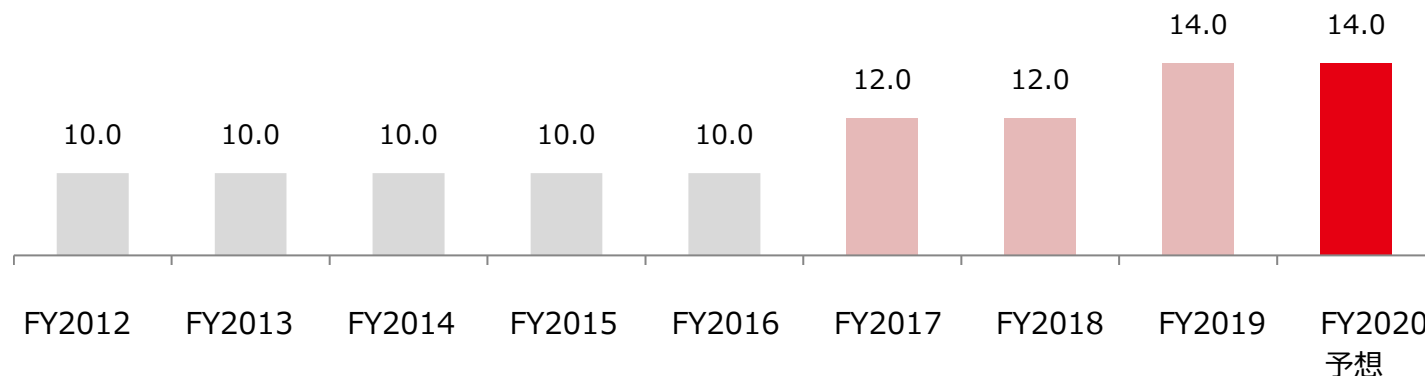
5. 株主還元について

<利益配分の方針>

- 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営上重要な政策の一つに位置付けております。
- 利益の配分については、安定配当の実施を基本とし、業績や今後の事業展開、内部留保の水準及び配当性向等を総合的に勘案のうえ、配当を行うこととしております。

<自己株式取得>

- 株主還元の充実を図るとともに、資本効率の向上を図るため、自己株式の取得を行っております。
株式総数：250万株（上限）、株式取得価額総額25億円（上限）、期間：2020年4月～2021年3月



純利益 (百万円)	701	1,001	268	226	1,691	1,224	1,283	1,732	1,600
1株当たり当期純利益 (円)	19.95	28.50	7.62	6.44	48.11	34.83	36.56	49.42	45.90
配当性向 (%)	50.1%	35.1%	131.2%	155.2%	20.8%	34.5%	32.8%	28.3%	30.5%

《参考資料①》カタクラグループの多角化起源

創業 1873年 (明治6年)

設立 1920年 (大正9年)

カイト

垣外製糸場



生糸



富岡製糸場の保有
1939～2005年
(66年間)



生糸製造

生糸製造の伝統を受け継ぐ

繊維事業

衣料品事業室
肌着、靴下の製造・販売

オグランジャパン(株)
カジュアルインナーの製造・販売

(株)ニチビ
水溶性繊維、耐熱性繊維の
製造・販売

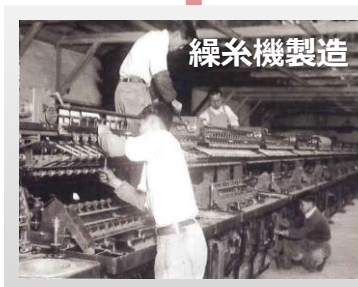


蚕糸関連研究

優良蚕品種研究を活かす

医薬品事業

トーアエイヨー(株)
医療用医薬品の製造・販売



繰糸機製造

自社開発の製造ノウハウを活かす

機械関連事業

機械電子事業部
自動車部品の製造・販売
石油製品等の輸入販売

日本機械工業(株)
消防自動車の製造・販売



製糸工場

跡地を有効利用する

不動産事業

不動産事業部
社有地の開発・活用
ショッピングセンターの運営
不動産賃貸

《参考資料②》カタクラグループの事業構成

繊維事業

介護肌着

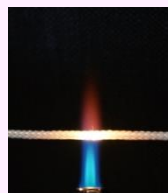


衣料品事業室 / オグランジャパン(株)

ライセンス製品



アルミナ長繊維
(耐熱性繊維)



(株)ニチビ

医薬品事業



トーアエイヨー(株)

不動産事業

複合施設 東京スクエアガーデン



不動産事業部

商業施設 コクーンシティ



機械関連事業

三岐弁



機械電子事業部

振動ハブリング
洗浄器



消防自動車



日本機械工業(株)

その他の事業

(※) 会計セグメントの「その他」に該当

交配専用みつばち



国産はちみつ



不動産事業部

植物とペットの専門 マルベリーガーデン



ビルの清掃等



(株)片倉キャロンサービス

<ご案内>

本資料中の業績見通し等についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。その実現・達成を保証または約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料に含まれる情報の掲載にあたりましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

<お問い合わせ先>

片倉工業株式会社

住所：〒104-8312 東京都中央区明石町6番4号

企画部 広報・IR室 室長 片岡 敬裕

Tel：03-6832-0223

Fax：03-6832-0282

世界遺産登録「富岡製糸場」



特集WEBページ「片倉工業と富岡製糸場が歩んだ歴史」

<https://www.katakura.co.jp/tomioka.htm>